

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	16234
課題名	婦人科がん死亡症例に関する詳細調査 -終末期における化学療法の可否を判断する根拠の確立を目指して- (JGOG 9002S)
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 平成 29 年 9 月 30 日
研究の対象	2012 年 1 月～2014 年 12 月に婦人科癌で当院でお亡くなりになられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：初回治療情報、再発時の状況、緩和治療、転帰等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
外部への試料・情報提供	<input type="checkbox"/> 自施設のみで利用 <input checked="" type="checkbox"/> 多施設共同研究グループ内（提供先：特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍研究機構）（提供方法：情報の匿名化を行った上でウェブ登録） データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。 対応表は、当センターの研究責任者が保管・管理します。 <input type="checkbox"/> その他（提供先： ）（提供方法： ）
研究組織	弘前大学 産科婦人科 二神 真行 ほか 特定非営利活動法人 婦人科悪性腫瘍研究機構参加施設 199 機関 婦人科悪性腫瘍研究機構 公式ホームページ http://www.jgog.gr.jp/
研究の意義、目的	婦人科がんのみならず全てのがん腫において治療不能な進行、再発、再燃する症例が存在します。それらの症例に対しては、がんによる症状を緩和する、あるいは延命目的に積極的な介入が行われることも多くなっています。しかし、いつまで緩和的化学療法をはじめとする積極的な介入を継続するのか、終末期医療の現状はどうか、早期のホスピス、緩和医療の介入と積極的介入との予後の差はあるのか等についてデータは非常に少ないのが現状です。多施設でのデータを検討することで、臨床現場で婦人科がん治療の終末期医療の症例に対し、積極的な介入を行うか否かを定める一つの指標が得られると考えられます。
研究の方法	対象者の診療録から初回治療情報、再発時の状況、緩和治療の内容、転帰等についての情報を収集し匿名化の上でウェブ入力します。
その他	当研究は、婦人科悪性腫瘍研究機構の研究費で行われ、実施については、旭川医科大学利益相反審査委員会の審査と了承を得ています。また、本研究の経過を定期的に旭川医科大学利益相反審査委員会へ報告等を行います。

お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>旭川医科大学 産婦人科 片山 英人（研究責任者） 〒078-8510 北海道 旭川市 緑が丘東2条1丁目1-1 旭川医科大学 産婦人科学講座 TEL:0166-65-2111(内線 2562)</p> <p>研究代表者：</p> <p>弘前大学大学院医学研究科 産科婦人科学講座 二神 真行</p>
---------	--